

第1講

哲学 学問の起源

問題 1

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(黒崎政男「哲学者クロサキの哲学超入門」による)

大意を把握する

「哲学者クロサキの哲学超入門」の内容を、文章の流れに沿って次のようにまとめた。□に入る語句を文章中から抜き出して答えよ。

●デカルトが問い続けたこと

世の中に絶対確実なものはあるのか

↓「確実なものなど何一つなく、すべてが疑わしい」と疑っている

① □ の存在は否定できない。

●考える私

「世界に確実なものなど何一つない」という言葉自体は「② □」

↓言っている「③ □」は残る。

●「私」の発見

否定する私の存在を否定することはできない

↓「我思うゆえに我在り」

一つだけ残る真実④ □ の元である「③ □」の発見。

●心身二元論

「私」を分離↓「⑤ □」としての心」と「物としての⑥ □」の二元論の確立。

自然科学は「⑦ □」としての世界のみを扱う↓飛躍的に発展。

① □

② □

③ □

④ □

□

⑤ □

⑥ □

⑦ □

内容を解釈する

「哲学者クロサキの哲学超入門」の冒頭に述べられている問いを深める過程を、次のようにまとめた。□に入る語句を文章中から抜き出して答えよ。

問い…絶対確実なものはあるのか

↓ 確実だと思っても実際には違ったという経験から生まれた問い。

例 学問：ころころ変わる

目の前にある物：夢かもしれない

↓ 「何一つ確かなものなどない」とすべてを疑ってみる（方法的① □）。

例 「1 + 1 = 3」かもしれない。

すべてを疑っている「② □」という存在が残る。

② □ という存在は③ □ なのである。（問いへの答え）

仮に「自分は本当に存在しているのか」と疑ったとしても、

疑う（④ □）私の存在を⑤ □ することはできない。

① □

② □

③ □

□

④ □

⑤ □

思考の過程を順を追って整理する。

↓理論の展開が明確に捉えられる。

読解演習

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

25 20 15 10 5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(黒崎政男「哲学者クロサキの哲学超入門」による)

問一——線①「世の中に絶対確実なものはあるのか」と問い続けました」とあるが、このようにあらゆるものを疑うことで絶対確実なものが残らないかを探る態度を何というか。本文中から五字で抜き出して答えよ。

--	--	--	--	--

問二——線②「そんなふう」の指す内容として最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 神様にそのかされているかもしれないと考えること。

45 40 35 30

イ すべてを無理やりにでも疑おうとすること。
ウ 確実なものがないことを歴史的に証明しようとする事

エ 何についても実際に手で触れてみて存在を確認しようとする事

問三 — 線③「これで終わりだ」とあるが、議論がこのような状態に至ることを何というか。本文中から抜き出して答えよ。

問四 — 線④「意識している我だけはその存在を疑いえない」とあるが、どういうことか。本文中の言葉を用いて三十字以内でわかりやすく説明せよ。

問五 — A に入る語句として最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア また イ つまり ウ しかし エ さらに

問六 — 線⑤「我思うゆえに我在り」とはどういうことか。最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 考えることが仕事である哲学者として自分の人生を生きていこうと決意するということ。

イ 思索という人間だけが可能な行為をすることで、初めて自分の人間としての存在意義が生じるということ。

ウ 自分が生きがいと思える行為をつきつめることによって初めて、自分が存在した証を残すことができるということ。

エ いくら疑いをつきつめていっても、疑っている自分という存在だけは疑うことができないということ。

問七 — 線⑥「私」の発見」は、何をもたらしたか。次の□に入る語句を、本文中から十一字で抜き出して答えよ。

問八 — B に入る語句を「a」と「b」にあてはまるように、aは一字、bは二字で、本文中から抜き出して答えよ。

a	
b	

問九 — 線⑦「科学の世界は飛躍的に発展していきます」とあるが、これはなぜか。最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 「私」中心主義によって科学的に物事を考えたから。

イ 科学者が「考える私」を意識するようになったから。

ウ 科学の対象を「物」に限定し、「心」を対象外としたから。

エ 精神の世界が科学で説明できないことが明らかになったから。

問十 — 本文の内容に合致するものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア すべてを疑っていくことで初めて、「私」が幻であることに思い当たる。

イ 疑うという意識作用が存在するかどうかを証明することはできない。

ウ あらゆるものを疑っても、疑う「私」は存在する。

エ すべてを疑う姿勢が、すべての西洋文明の根源である。

問題 2

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

25 20 15 10 5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

45 40 35 30

(注) ソクラテス…古代ギリシャの哲学者。弟子やアテネ市民たちとさかんに対話した。
フッサール…一八五九年～一九三八年。オーストリア生まれのドイツの哲学者。

日本社会は急速に「あたりまえの生き方」が崩れた社会だ、と私はいった。

…筆者はこれより前の部分で、日本では、明治の近代化、敗戦、高度経済成長、格差社会化、情報社会化といういずれも急激な社会の変化により、その都度、それまでの「あたりまえの生き方」が崩れていったという内容を述べている。

(西研「哲学は対話する」による)

大意を把握する

「哲学は対話する」の内容を、文章の流れに沿って次のようにまとめた。

に入る語句を文章中から抜き出して答えよ。

●フッサール現象学は、

根源的な真理を廃棄したうえで、
皆が納得しうる ① の形成が可能であることを主張した。

例を挙げると、

「真の幸福とは何か」と問うと、共通の答えはないが、(どういうときに、幸福とを感じるか)と問うと、それぞれが幸福体験を出しあい、いくつかの ② なもの(＝ ①)が指摘できる。

このように、

「 ③ 」を工夫すれば、自分自身の ④ をもとに探究でき、そこから皆が納得できる ① をつくっていきける。

このように、

これは個々人の生き方や、 ⑤ についても大きな可能性を拓く。

例 教育

人びとが考え合い、納得できる共通理解に至り、社会的にも共有していく。

あらゆることが ⑥ になったいま、哲学の営みが必要であり、① に向けて探究する方法があることを示さなくてはならない。

①

②

③

④

⑤

⑥

内容を解釈する

「哲学は対話する」に述べられている「共通理解に向けて探究する方法」を、次のようにまとめた。

共通理解に向けて探究する方法

抽象化した内容

具体例による説明

×「感度や意見が多様であってよい領域」について
○「 ③ しうる答えがある領域」について

×「真の幸福とは何か」
○「人はどういうときに、自分を幸福だと感じるのか」

語りあい考えあう

① を出しあう

「そうか、こういうことなのだ」という ④ が得られる

② ではないことがわかる

共通理解に至る

典型的なもの
(＝共通理解となるもの)
が指摘できる

個々人の生きる希望より好ましい ⑤ の制度

例・自分が大切に思われたとき・協力してやり遂げたとき

不明確な社会だからこそ、哲学 ⑥ (哲学の営み)が必要。

①

②

③

④

⑤

⑥

具体例を図や式で整理する。↓抽象的な内容の理解につながる。

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

25 20 15 10 5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

45 40 35 30

(注) ソクラテス…古代ギリシャの哲学者。弟子やアテナ市民たちとさかんに対話した。
フッサール…一八五九年～一九三八年。オーストリア生まれのドイツの哲学者。

日本社会は急速に「あたりまえの生き方」が崩れた社会だ、と私はいった。

…筆者はこれより前の部分で、日本では、明治の近代化、敗戦、高度経済成長、格差社会化、情報社会化といういずれも急激な社会の変化により、その都度、それまでの「あたりまえの生き方」が崩れていったという内容を述べている。

(西研「哲学は対話する」による)

問一 ― 線①「皆が納得しうる共通了解」は、何において成り立つのか。本文中から四字で抜き出して答えよ。

--	--	--	--

問二 に入る語句として最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 個々人の答え イ 共通の答え
ウ 自分の幸福体験 エ 積極的な意義

--	--	--	--

問三 ― 線②「『問い方』を工夫する」とは、どういうことか。最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

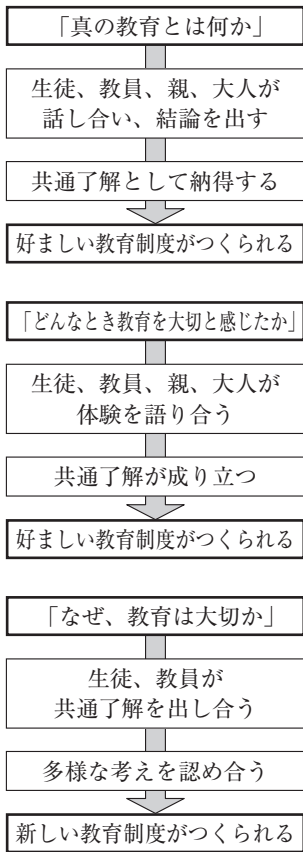
- ア 幸福について平易な言葉で質問し、気軽に回答できるように問う。
イ 真の幸福の意味について、より深く探求するよう促しながら問う。
ウ 幸福にまつわる記憶や実感を、各自に思い起こさせるように問う。
エ 自分の幸福体験を、感情を入れずに客観的に分析するように問う。

--	--	--	--

問四 ― 線③「個々人の生き方や、社会のあり方についても大きな可能性を拓く」について、次の問いに答えよ。

- (1) 教育の場合、哲学によってどのような可能性が拓かれると、筆者は考えているか。その模式図として最も適当なものを次のア～ウから一つ選び、記号で答えよ。

- ア イ ウ



- (2) (1)と同時に、筆者は、生徒や親たちにとって、教育に対してどのような可能性が拓かれると考えているか。次の に入る部分を、本文中の言葉を用いて二十五字以内で説明せよ。
- 教育について考え合い、共通了解に至れば、 を見出すことができる。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問五 ― 線④「『そうか、こういうことなのだ』という深い納得」は、何と

言い換えられるか。最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 大きな可能性 イ 社会的な共有
ウ 典型的な事例 エ 明確な共通了解

--	--	--	--	--	--	--	--

問六 ― 線⑤「感度や意見が多様であつてよい領域」と同じ意味を表す言葉を、本文中から十二字で抜き出して答えよ。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問七 この文章の内容として最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア あらゆることが不明確な社会において、人びとが対話して共通了解を得るという哲学の営みは、人生に積極的な意義を見出すのに役立つ。
イ 対話の哲学は、「あたりまえの生き方」が崩れた今の日本に、新たな「あたりまえ」、つまり現代人が納得できる価値基準をもたらすといえる。
ウ 共有しうる答えがある領域で、問い方を工夫しながら深い納得を得ることができれば、個々人にとってより生きやすい社会となる。
エ 真の幸福について語りあい考えあう哲学対話は、個人の生き方や社会制度の改革について、大きな可能性を拓くと示さなくてはならない。

--	--	--	--	--	--	--	--